

横浜市民ギャラリーあざみ野 平成 28 年度指定管理業務（外部評価）

	市川委員	垣内委員	金子委員	川崎委員	竹森委員
I 文化事業	<p>【評価できる点】 1月に行われた、あざみ野フォト・アニュアルコレクション展「写真 時間の位相」あざみ野フォト・アニュアル企画展「新井卓 Bright was the Morning - ある明るい朝に」のコレクション展示は、横浜市民ギャラリーあざみ野の収蔵品である、カメラ、写真作品の展示は、改めてネイラーコレクションの素晴らしさを開示できたことと、関連した作品としての現代の新井卓氏作品展とうまく合わせたところ、また制作工程を見せることができたこと、フォト横浜の期間中でも23日～26日と会期をCP+2017とオーバーラップできたことは、大きく評価できます。</p> <p>また、カメラ、写真のデータベース化をほぼ終えたということですが、これらが一般公開されるようになれば興味が持たれるようになると思われます。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 横浜市民ギャラリーあざみ野のネイラーコレクションに対する認識は、まだまだといった感じが強く、2011年で止まっているデータベースの公開などを積極的に行うことにより、さまざまな副次的効果が創出されるのではないかと考えます。</p> <p>参考までに、パリ郊外にあるフランス写真博物館のHP (http://www.museedelaphoto.fr/) は整理に5年ほどかかったようですが、カメラのみならず写真の整理も素晴らしく、詳細に一般公開されています。</p> <p>今年度のフォトコレクションの特別展示は、想定の上を2倍を超える観客動員数ですが、日常の展示があまりにもスペースとして少なすぎるのが難です。可能ならば小部屋でも常設展示ができると、よりポジションが定着すると考えます。</p> <p>自分の思いと写真展は、インクジェットでのプリント作業を子供たちにやらせようと、より楽しみが広がります。銀塩の写真システムは、薬品を扱うこと、特殊な場でしか扱えないことから今日に至っているわけですが、あまりにも特殊で、一般家庭での再現性のある、デジタルシステムもプリント作業として追加するとよろしいかと思えます。</p>	<p>【評価できる点】 多くの事業で目標を上回る誘客や満足度をあげており、しっかりした事業が行われていると思われる。特に、あざみ野カレッジでは、文化芸術以外のコースも設けたことでほぼ倍の参加者数になっているほか、あざみ野子どもギャラリーも健闘している。地域の拠点を目指した運営姿勢は高く評価できる。また、コンテンポラリーアート系の展示は今若い世代を中心に大変人気が高まっており、本年の事業業績にも反映されていると思われる。また、写真関連の展示も見ごたえがあり、施設の強みを生かした事業で、成果も出ている。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 アーティストクリエイター支援と創造性を生かしたまちづくり、文化発信はほかの項目に比べ実施していない事業、目標に達していないものも見られる。コンテンポラリーアートの満足度が低い理由なども含め、しっかりした検証が必要ではないだろうか。</p> <p>カメラやフィルムのコレクションは、実際資料にも記載されているように、非常に貴重なコレクションであり、その価値も経年で上がっていくと思われる。より積極的な活用と、そのための調査研究や広報を望みたい。</p>	<p>【評価できる点】 地域アウトリーチの派遣型アウトリーチを積極的に展開し、特に写真ワークショップの成果が「こどもぎやらりい」の展示にも活かされるなど、本施設の特性が発揮されている。</p> <p>造形活動による学校支援が高い頻度で実施されたほか、学校アウトリーチの実施校数・参加者数も目標を上回るなど、学校との関係構築がしっかりと図られている。</p> <p>アーティストトークに多くの参加者が集まるなど、本施設の、作家の存在や視点を伝える取り組みに対する評価が着実に浸透してきたと思われる。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 「市民のためのプログラム」で、結果的に工芸分野の講座が無い年度となったが、「業務の基準」にも「多様なプログラムの実施」とある点を重視されたい。また、「アーティストに学ぶ」の参加者数が低く、作家主体の企画が必ずしも市民の意向と合致していないと思われるので、さらに工夫を求めたい。</p> <p>今回の「音祭り」関連事業について、本施設の事業としての企画上の意義が見えにくく感じられた。</p> <p>写真表現史の連続講座について参加者数がやや低いことから、専門性の高い講座については、テーマ設定や内容、実施形態や広報等にさらに検討が必要と思われる。</p>	<p>【評価できる点】 あざみ野カレッジ等で、近隣地域に関わるテーマを取り上げ、講師として招いたり、訪問するなどして、地域資源を掘り起こし、市民が地域を再発見する機会を提供していること。</p> <p>障害者や若手アーティストの表現、発表の場の提供を積極的に行っていること。</p> <p>子ども、親子で体験できるプログラムを提供し、多くの参加者も得て、地域に浸透しつつあること。</p> <p>学校や市民利用施設等に出向いてプログラムを実施するアウトリーチ活動を積極的に行っていること。</p> <p>大学との連携を試みていること。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 アウトリーチ活動の強化。人員体制との兼ね合いも検討する必要があるが、横浜北部のアートの拠点として、施設としての機能（地域の人たちに利用・来場してもらう）とともに、市民のアート活動を支援したり、ノウハウを広く伝えていく機能としてのアウトリーチ活動は重要だと思われる。またアウトリーチにおいては、アウトリーチ先の機関や団体が受け入れ先となるだけでなく、なるべく、プログラムを共同企画・実施することで、主体的に関わってもらうことが重要だと思われる。アウトリーチによって出会う人たちが、施設の利用者・参加者となり、また、施設の利用者・参加者がアウトリーチ先となるなど、施設利用とアウトリーチの循環型発展が望まれる。</p> <p>方針として「年齢、性別、人種、国籍、障害の有無などに関係なくすべての人の受け入れを尊重し」とあり、年齢、性別、障害の有無については、積極的に取り組んでいる様子が伺われたが、人種や国籍については、具体的にどのように尊重（配慮）したのかが不明。</p> <p>大学との連携をさらに進めて、学生サークルの利用促進や、学芸員課程の実習生に限らず一般学生のインターンの受け入れなどはないか。</p>	<p>【評価できる点】 多くの事業におきまして、参加者数は目標を上回り、また平均満足度も概ね高い評価を得ています。</p> <p>「あざみ野カレッジ」では、従来のアートの枠を超えた生涯学習の場を提供することによって、新しい利用者の取込みに成功し、地域への融合の端緒になったものと思えます。</p> <p>アウトリーチ活動では、地元小学校への定期的な事業派遣、地元イベントへの参加、大学連携など、積極的に取り組まれている姿勢を高く評価したいと思います。</p> <p>また、横浜市北部地域は子育て世代が多く住むため、「親子のフリーズゾーン」において、安心してのびのびとアートに触れ合える機会を子供たちに提供する取り組みは、地域における文化施設として大きな役割を果たしています。</p> <p>「あざみ野コンテンポラリー」では、先進的なアートを発信することによって各方面から高い評価を得、多くの来場者を集めました。これによって、当施設の独自性を強くアピールし、認知度を高めることにつながったのではないかと思います。</p> <p>さらに、カメラ・写真コレクションについてデータベースが整備され、また当該コレクションと関連した企画展を開催し、多くの来場者を集めたことは、貴重な文化資源の保護・活用という観点からも高く評価したいと思います。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 「あざみ野コンテンポラリー」は、来場者は目標を大きく上回りましたが、平均満足度は目標を下回りました。これはコンテンポラリーアートという性格上、来場者の評価が分かれたという側面もあるかと思えますが、地域に根差した文化拠点という観点からは、親しみやすさ、敷居の低さ、という点にも意を用い、引き続き満足度の向上に努めていただきたいと思います。</p>

横浜市民ギャラリーあざみ野 平成 28 年度指定管理業務（外部評価）

	市川委員	垣内委員	金子委員	川崎委員	竹森委員
I 文化事業				<p>【改善が必要と考えられる点】 男女共同参画センターとの協働において、ロビーコンサートなどは行っているが、男女共同参画推進をアートを活用して実施するプログラムや、アートにおける男女共同参画をテーマとしたプログラムなど、双方のミッションを融合させるような協働を検討できないか。創作落語はそうした事業であったのかもしれないが、再検討となったようなのが残念。 親子のフリーゾーンのよう、多数の乳幼児親子の来場が見込まれるときには、スタッフの増員など配慮を行っているとのことだが、混雑時の様々なリスクに臨機応変に対応できるように、より一層の人員体制、安全管理体制の検討・実施を望みたい。 参加者が少ない（数名以下など）のプログラムに対して、参加者が関心を持ちやすいプログラムに変更することもひとつ改善策であると思うが、アートの拠点としてのミッションに照らして、当初は参加者がすくなくても発信・浸透させていきたいプログラムである場合は、市民にどのようにアプローチしていくか（広報の方法や訴えかけの文言など）を工夫して、続けてみるという選択肢もあると思う。長期的な視点での選択を望みたい。</p>	<p>【改善が必要と考えられる点】 「親子のフリーゾーン」につきましては、参加者が増加することは大変望ましいことですが、参加者が幼児・子供であるため、不測の事故が発生することも危惧されます。保険の充実や安全対策等のために、必要最小限の参加料を実費相当として徴収することも検討する余地があるかと思えます。 また、カメラ・写真コレクションは貴重な文化資源であるため、今後は整備されたデータベースを活用し、地域内だけでなく、広く世界的な見地で有効に活用されることを期待します。</p>
II 施設運営	<p>【評価できる点】 特筆する点は思い当たりません。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 あざみ野の特性を活かして、今日多くの人が楽しむようになった写真に対して、社会人高齢者向け写真教室、一般人の行える写真展、個展などを後押しできるようなことができれば、施設の活用も図れるのではないのでしょうか。</p>	<p>【評価できる点】 展示質の利用率、展示室利用者満足度ともに目標値を高い比率で達成している。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 アトリエ活用が引き続き大きな課題である。また、既に10年が経過した施設としては、認知度が低い。いずれも今後の具体的な方策について検討する必要がある。</p>	<p>【評価できる点】 展示室の高い利用率を維持している点、アトリエ利用率についても改善の可能性を具体的に探っている点を評価する。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 アトリエの機能や用途を広げる上での、附帯設備の拡充等、潜在的利用者の意向や要望の把握に努めてほしい。</p>	<p>【評価できる点】 利用者・利用団体に、専門スタッフがサポートを行っている点。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 乳幼児と親が参加するプログラムの増えてきたように思われるが、ベビーカーの利用や授乳、複数の子どもを連れてきた親へのサポートなどに配慮が必要となってきているのではないか。他言語対応はどこまでできているか。</p>	<p>【評価できる点】 展示室の利用率が引き続き高く、利用者平均満足度も4.63と高いことは、職員の方々のきめ細かい対応によるものと思えます。 また、少ない人員で、効率的かつ安定的に運営されていることを評価します。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 アトリエの利用率向上につきましては、「学生割引制度」を導入するなど、取り組みは評価しますが、残念ながら利用率は昨年を下回りました。今後も引き続き努力して下さい。</p>

横浜市民ギャラリーあざみ野 平成 28 年度指定管理業務（外部評価）

	市川委員	垣内委員	金子委員	川崎委員	竹森委員
Ⅲ 維持管理	<p>【評価できる点】 特筆する点は思い当たりません。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 特筆する点は思い当たりません。</p>	<p>【評価できる点】 適切な施設維持管理が行われていると思料。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 改善ということではないが、施設自体が環境負荷をあまり想定しない建造物であり、経年劣化を考えると小破修繕を適切に行っていくことが極めて重要なことと考える。 また、貴重なカメラ、写真のコレクションについては、しっかりした方針がほしいところである。広報に関しては、より幅広く交通媒体も巻き込んだ展開が望まれるが、一方、客層により効率的な広報の仕方が大きく異なることから、しっかりした観客分析とそれに基づく戦略をまず検討するべきだろう。</p>	<p>【評価できる点】 ホームページ、メールマガジン、SNS などによる情報発信に積極的に取り組んでいる。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 雨漏り・湧水等の水関連の不具合は作品や資料の被害にもつながるので、早期の発見・対応への取り組みが求められる。</p>	<p>【評価できる点】 防災訓練、救急救命講習など、全職員で実施していること。 複合施設として管理合同ミーティングを実施している点。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 子どもや高齢者なども含めて多くの人が利用する施設などで、地震・火災時等の利用者の避難誘導・安全確保についても、日常的に気がついた点等を議論し、いざというときにスタッフが迅速に対応できるようにしておく必要があるかと思います。</p>	<p>【評価できる点】 「男女共同参画センター横浜北」と連携し、効率的かつ効果的な維持管理を実施している点。」 ホームページや紙媒体など、積極的な広報活動を行っている点。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 ホームページにつきましては、アクセス数が目標を大きく上回っており、また情報の更新も迅速に行われておりますが、全般的に情報量（文字）が多く、やや見づらいという印象があります。</p>
Ⅳ 収支	<p>【評価できる点】 特筆する点は思い当たりません。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 今年度は新井卓氏の「ある明るい朝に」の図録を 500 円で有料頒布したようですが、コストに対する収支は難しかったと思います。お客さんの側からすると、500 円という価格に対する納得感が必要だと思います。この点においてはあざみ野ネイラーコレクションのカメラ作品などを紹介する冊子ができれば、少しは収益に寄与するかもしれません。</p>	<p>【評価できる点】 公的助成を積極的に受けたこと、受益者負担が望ましいプログラムでしっかり収益を上げたことは評価できる。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 利用料金収入の改善は喫緊の課題である。</p>	<p>【評価できる点】 事務費・管理費について経費削減に努め、効率的運営を行っている。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 自主事業費については予算を踏まえて事業内容の充実に向けて活用されたい。</p>	<p>【評価できる点】 自主事業収入の確保に努力している点。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 費用対効果や採算性を考えつつも、公的施設の役割として、採算がとれなくても行うべき事業も多々あるかと思います。すでに行っているのかもしれませんが、事業ごとに、採算性を考える事業、収入源となる事業、採算はとれなくても続けていくべき事業などのメリハリをつけながら、全体としての収支の健全性に勤めていただければと思います。</p>	<p>【評価できる点】 一部の自主事業について、目標を上回る黒字を計上した点。 助成金、協賛金等、積極的に外部資金を獲得した点。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 利用料金収入の増加について、方策を検討してください。</p>
その他			<p>デジタル一眼カメラ講座はもともと実施予定であったことから、陶芸講座の代替とする説明は適当ではない。 資料において再掲のかたちで1つの事業の実績が複数箇所記載されている点は分かりにくく感じた。</p>		

横浜市民ギャラリーあざみ野 平成 28 年度指定管理業務（外部評価）

	市川委員	垣内委員	金子委員	川崎委員	竹森委員
総括	<p>展示等に関しては、1月に行われたあざみ野フォト・アニュアルが、コレクション展、企画展の相互効果により、観客数が大幅に増大できたのは、大きく評価できる。営業写真館開設の地であり、フォト横浜との連携の継続的な活動をこれからも望む次第です。</p>	<p>全体的に、ほぼ目標値を達成できており、多少の課題が残るとはいえ、特にイベント系での実績は、高く評価できる。もちろん、伸びしろがまだあると感じられることから、入場者、利用者等のセグメント別戦略も検討いただいた上で、来年度以降も多様な試みに挑戦されたい。一方、施設利用の観点からは、アトリエ利用率の低さが気にかかる。近年、公的施設に向けられる納税者の厳しいまなざしを考えると、新しい活用方法を考える時期に来ているのではないだろうか。また、貴重なコレクションの保存と活用をしっかりと展開することで、他の施設と差別化できるのではないかと思われる。人員が少ない中、外部専門家、関心のある人々との連携も視野に入れる必要があるかもしれない。</p>	<p>第3期を迎え、市民活動支援や次世代育成の実績が着実に重ねられていることに加えて、課題であったカメラ・写真コレクションの活用が図られ本施設の強みとして活かされている点、またアーティストインタビューのアーカイブ化など活動記録の蓄積が新たな資源として価値を発揮している点を評価したい。</p>	<p>施設のプログラムは充実してきているように感じました。アウトリーチにも力を入れているようですので、市民ギャラリーあざみ野が、施設から支援拠点へと成長する時期にきているように感じました。</p>	<p>「横浜市民ギャラリーあざみ野」は開館から12年目を迎え、徐々に横浜市北部地域におけるアートの拠点として存在感を増して来ているものと思います。全ての企画展において、来場者数は昨年度実績及び目標を上回り、「アートを発信する」という目標はほぼ達成しつつあるように思います。しかしその一方で、利用料金収入の減少や、アトリエ利用の低迷など、「市民ギャラリー」として地域の自主的な活動の受け皿になるという点では、課題も散見されます。</p> <p>今後は自らが発信者となるだけでなく、地域住民が発信者となることを支援することにもこれまで以上に注力し、真の意味で地域に根差したアートの拠点になっていただきたいと思います。</p>

平成28年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価				
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価			
1 市民の文化芸術活動を支援します。	市民自ら行う文化芸術活動の「きっかけづくり」や「継続的な活動」をお手伝いする	市民のための講座			チェック	【計画書からの変更事項】 ・「身近な土を陶芸に活かす」を、内容充実を目指し次年度に送り、代替として「やさしく、たのしいデジタル一眼カメラ」(1コース、全4回)に変更し、実施。 ・「はじめての透明水彩」開催回数を、講師と相談の上、5回で目標到達点に達すると判断し、6回から5回に変更。 ・「季節を描く水墨画」は目標到達点に、6回の講義が必要と判断し、5回から6回に変更 ■年間12コース(延49回)を実施(含:一眼カメラ講座) ・対目標値2コース増	【成果】 ・「市民のためのプログラム」では、参加者数が目標人数の107%に達し、毎回多くの参加希望者があり抽選により参加者を決めることも多々生じた。講座終了後の満足度も4.78と目標を超えた。 ・「あざみ野カレッジ」では、貴重な音源の鑑賞や近隣の農園へ出向く企画を取り入れるなど、「座学」という形態にこだわらない柔軟な手法が好評を得ており、当館ならではの生涯学習の場を提供することができた。 ・「あざみ野サロン」(鑑賞型事業)では、「横浜音祭り2016」との連携事業を、横浜みなとみらいホールと共に企画する等、当フェスティバルの横浜北部における認知度向上に貢献すると同時に、アートフォーラムあざみ野の賑わいの創出及び顧客開拓にも効果があった。 ・平成22年度から継続して開催している「フェローアートギャラリー」の保土ヶ谷区の市民利用施設への巡回展が実現した。受け入れ先施設からは、次年度以降も継続開催の希望をいただくなど、今後の当事業が広域発展する足掛かりをつけた。来場者からは「あざみ野で作品を見たことを契機に来館した」「こういった作品を数多く見たい」「この豊かな世界を多くの人に知ってもらいたい」などの声が寄せられた。 【課題】 ・講座やワークショップ等の体験型事業は、当館での経験を経た参加者が継続して主体的に芸術文化活動に関わっていくことを目的としているが、目的を果たしているかのリサーチが行われていない。個々の事業に対する「開催の意義・効果」を検証することが必要である。 ・事業実施の目標数はクリアしているが、鑑賞型事業の集客は、更に高い成果を上げるため、プロモーション手法や営業活動に工夫を加える必要がある。 ・地域連携やアウトリーチの活動が十分とは言えない。横浜北部の市民利用文化芸術施設として、活動範囲を館内のみならず、更に積極的に外とのネットワークを構築し、その活用を推進する必要がある。	【評価できる点】 ・「市民のためのプログラム」では、実施内容を柔軟に検討したことで、安定した講座の運営が実現された。 ・「あざみ野カレッジ」では、文化芸術に限らない多彩な内容の講座を展開し、参加者数の目標達成比が約196%となったことを高く評価する。また、地域の農家や店舗と連携した講座の開催を実現し、知的好奇心が刺激される講座を提供しただけではなく、地域産業の広報に寄与したことを評価する。 ・「あざみ野サロン」では、本市文化事業である「横浜音祭り2016」と7事業中4事業と積極的に連携し、事業内容も特色ある企画を実施した。また、外部資金の獲得により実施事業数の増加につなげ、より広範な分野の事業を市民へ提供したことを評価する。 ・地域アウトリーチでは、「フェローアートギャラリー」の取組を館外で実施したことにより、障がいをもつ方のアート作品をより広範に市民に知ってもらう機会を提供したことを評価する。		
		□はじめてのデッサン 実施回数	6回	7回	A					
		□はじめての透明水彩 実施回数	6回	5回	C					
		□身近な土を陶芸に活かす 実施回数	4回	0回	C					
		□水墨画の魅力 実施回数	4回	5回	A					
		□ヌードクロッキー 実施回数	4コース、各4回	5コース、各4回	A					
		□アーティストに学ぶ 実施回数	2回	2回	B					
		□コレクションを見る会 実施回数	3回	6回	A					
		□延べ参加者数	800人以上	853人	B					
	□平均顧客満足度	4.6以上	4.78	B						
	2 様々なジャンルの達人やプロフェッショナルによる講座やワークショップで、大人の知的好奇心を刺激する	あざみ野カレッジ							■年間8回実施 アート関連 4回、地域関連ほか広範囲な題材 4回(地元ハマ梨農園訪問や好評講座のシリーズ化等を行った結果、合計回数が2回増加)	【改善が必要と考えられる点】 ・「あざみ野カレッジ」の満足度が目標値を下回っているため、講座の目的や内容の告知方法を見直すことが必要と考える。また、今後は地域とより連携することで、地域のつながりの媒体としての役割を一層果たすことを期待する。 ・「あざみ野サロン」全体の事業を通して、入場者数の増加を図るため、チケット販路の強化や広報手法の更なる改善が必要である。
		□アート関連 実施回数	3回	4回	A					
□地域ほか広範囲な題材 実施回数		3回	4回	A						
□延べ参加者数		180人以上	354人	A						
3 複合施設の特徴を活かした、企画展関連事業、フェスティバル事業との連携事業、センター横浜北との共催企画で、アートフォーラムあざみ野の賑わいの創出や顧客開拓をする	あざみ野サロン 企画展関連、他舞台系事業				■年間7事業(音祭り関連:4事業、その他3事業)実施 分野:音楽4、映像1、落語1、講演1 (音祭り関連事業に助成金が付いたことにより、見送りを検討していた落語会を新春に開催した結果、合計回数が1回増)					
	□音祭り連携 実施回数 ※(4)に再掲	4回	4回	B						
	□音祭り連携 入場者数	400人	262人	C						
	□その他 実施回数	2回	3回	B						
4 日ごろ文化芸術に触れる機会の少ない市民を対象としたアートの出前事業を行い、また、市民交流やコミュニティの活性化を図り、創造的なまちづくりを推進する	地域アウトリーチ、賑わい創生				【派遣型】 ・山内小(6-7月) 写真ワークショップ、「自分の思いと写真」展 ・岩間市民プラザ(1月) フェローアートギャラリー阿山隆之展 【地域連携型】 ・あざみ野夏祭り2016(8/27):地域のイベントに地元の大学と参加・協力 ※参加者数については、写真ワークショップの実数のみ記載。					
	□派遣型アウトリーチ 実施回数	1回	2回	A						
	□市民協働/地域連携型 実施回数	1回	1回	B						
	□アウトリーチ 参加者数	100人	266人	A						

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
2 子どもたちをはじめとする次世代育成をします。	5 アートを通して子どもの感性を磨き、主体性を伸ばすとともに、創造の喜び、コミュニケーション力、思いやりの心を育む	「こどもぎやらりい2016」			「あざみ野こどもぎやらりい 2016」 【展示】 ・おもしろ動物たち(後藤楯比古) ・Byang Byang(川村亘平齋) ・さわって、かいで、撮って、焼く-体感写真- ・「自分の思いと写真」展 【ワークショップ】 ・後藤さんといっしょにつくろう! おもしろペンギン ・おもしろ動物工作コーナー開設 ・光と影のワークショップ ・あざみ野ナイト:川村亘平齋と田中馨の影絵と音楽 【事前アウトリーチ、サポーター活動】 ・さわって、かいで、撮って、焼く-体感写真- ・写真ワークショップ@山内小学校	【成果】 ・「あざみ野こどもぎやらりい2016」は、昨年度の3,583人を上回る4,077人の入場者数となった。メインビジュアルをチラシに用い、企画展の内容をわかりやすく広報できたことが集客につながったと考えている。連日、親子連れを中心に賑わい、直接の声やアンケートの結果からみて、芸術文化を身近なものだと認知していただけた。 ・山内小学校へのアウトリーチは、毎年5年生を対象に行うことで恒例事業として学校や保護者にも周知されてきたと考えている。地域との連携事業として、今後も続けたい。 ・各種「子どものためのプログラム」では、丁寧に「講座実施の目的」を検討し、子どもたちを達成地点に誘う内容に定評があり、参加者平均満足度が4.86と高い事業運営を継続した。いずれの事業も応募者多数により抽選を行うこととなった。事業数、集客等の全項目で、目標を上回る成果を上げた。 ・「親子のフリーズゾーン」では、今年度も昨年度に引き続き延1万人を超える参加者数を達成した。特に未就学児がアートに気軽に触れ「創造の喜び」を実体験する場として、次世代育成に大きく貢献していると考えている。利用者からは、「家の中では出来ないくらい自由奔放にアートで遊ぶことで、親子共に豊かな時間が過ごせている」等の声が寄せられた。従来までの運営経験により、事前に繁忙が予想される時期の把握が可能となり、適切なスタッフ数を配置することで「事故ゼロ」の継続を実現した。 ・地域の特別支援学校や個別支援学級を対象としたワークショップも積極的に実施し、それらの活動支援及び当該分野とのリレーションシップの実現により、障がいの有無に関わらず子どもたちの感性を磨き主体性を伸ばす目標の達成につながっている。	【評価できる点】 ・「あざみ野こどもぎやらりい2016」は目標入場者数を1,000人以上上回ったことを高く評価する。また、会期中に開催された各ワークショップが好評を得たほか、「あざみ野ナイト2016」の入場者数は予想の2倍近くの192人だった。本企画展に多くの入場者を呼び込むことで、次世代教育に貢献したことを評価する。 ・「親子のフリーズゾーン」の延べ参加者数は年間10,624人となり、未就学児が自由な創作活動を行い、アートを体験できる場として市民に認知されているといえる。参加者数が多い事業ではあるが、柔軟で適切な対応により事故もなく、円滑な運営がなされたことを評価する。 ・養護学校や特別支援学級を受入れ、アトリエでの美術造形活動プログラムを無償提供する取組(学校利用)の実施回数が目標を上回ったことを評価する。また、「親子で造形ピクニック」の実施回数も目標を達成しており、障がいをもつ子どもたちに美術造形活動を提供する場となった。 ・「子どものためのプログラム」は参加者数が目標を上回ったことを評価する。また、満足度が5点中4.86点という高い水準であることから、安定した講座の運営がなされたことが伺える。
		□企画展 実施回数	1回	1回	B	【アトリエ事業年間参加者数内訳】 「親子のフリーズゾーン」:参加者数:計10,624人	・「親子のフリーズゾーン」は参加者が多い事業だが、参加者がさらに増加した場合、利用者の安全確保や、ベビーカー置場の確保等の課題が発生することが想定される。今後は事業の目的を念頭に置きながら、これらの課題の対応方法を検討する必要がある。
		□来場者数	3,000人以上	4,077人	A	「親子で造形ピクニック」:参加者数:計203人	・「子どものためのプログラム」は応募数が定員の3倍を上回る回もある人気の講座だが、対象が子どもということで急な体調不良等によるキャンセルが多く、結果として参加者数が定員を下回る場合があった。今後は、当日キャンセルが発生した場合は、SNSやホームページ、メールマガジン等を活用して抽選に外れた方へ案内する等の取組を実施し、参加希望者への参加機会の拡大を図ると共に、指定管理者の講座料収入の確保のための方策を検討する必要がある。
		□関連事業 身体表現ワークショップ 実施回数	1回以上	1回	B	「学校利用」:年間14校、延べ15団体、参加者数:計305人	・「子どものためのプログラム」は、各講座好評により抽選での参加者決定となっているが、毎回、体調不良などによる当日キャンセルが発生しており、募集定員を割り込む人数での実施となるケースも発生したため、参加料の事前徴収などの検討が必要である。
		□アトリエ事業年間参加者数	延べ 9,000人以上	11,428人	A	アトリエでの「子ども関連ワークショップ」計13事業 296人	・より多くの子どもたちに芸術文化に親しんでいただくには、施設に留まっているだけでは限界があるので、保育園・幼稚園・小学校をはじめとした、近隣教育機関との更なる強い連携が求められる。また、大学生等のインターンシップ受け入れ等についても、ターゲットの学校を絞り周知を図る等の手法をとることで、更に推し進めたい。
		□親子対象の造形・創造活動 親子のフリーズゾーン(FZ) 実施回数	月3回	月3回	B	「子どものためのプログラム」 対象を、「幼稚園・保育園の年中組相当」「同年長組相当」「小学校1~3年生」「同4~6年生」に分け、自分の手や目、からだ全体を使って活動し、自己表現をしなくなる気持ちを引き出すことを目指したプログラムを実施。	【課題】 ・「親子のフリーズゾーン」の来場者が今後も増大する場合、来場者の安全確保やベビーカー、荷物置き場等のハード面への対応を検討する必要がある。現時点では人員を増強することにより「無料で事前予約なしに気軽に楽しめる」を保っているが、「事前申し込み制(抽選、先着)」等も視野に対応を検討する。
		□親子対象の造形・創造活動/障がい者支援 親子で造形ピクニック 実施回数	月1回	月1回	B	【幼稚園・保育園の年中組相当の幼児】 ・『焼き物しよう!』、『ホチキスでとめて、とめて』、 『木工しよう!』 【幼稚園・保育園の年中組相当の幼児】 ・『えのぐであそぼう!』、『ねんどであそぼう!』、『はさみであそぼう!』	・横浜美術館及び横浜市民ギャラリーと連携した展覧会の鑑賞体験と講座の実施が行われなかった。今後は実現に向けて両館と連携し、検討を進めることを望む。また、単館としての展覧会の鑑賞体験及び講座の場を「あざみ野コンテンツポラリー」と「あざみ野フォト・アニュアル」の2つの企画展にて設けたが、参加者数は13人に留まった。今後はターゲット層の関心が得られる周知方法の検討や、より効果的な広報の実施等により、参加者数の増加に取り組む必要がある。
		□造形活動による、学校支援 実施回数	10回程度	15回	A	【小学1~3年生】 ・『スタンプお絵描き!』、『スチロールでつくろう!』、『石膏でつくろう!』、『糸でつくろう!』 【小学4~6年生】 ・『さわって、かいで、撮って、焼く-体感写真-』、『かき氷を描く木版画教室』、『ガラスに挑戦』	
		幼児・児童向けワークショップ				「さわって、かいで、撮って、焼く-体感写真-」 「写真ワークショップ@山内小学校」 「あざみ野フォト・アニュアル『ハイ&ロースピード★ラボ』」	
		□幼児向け講座 実施回数 「やってみよう」「みんなであそぼう」	7講座	6講座	C	横浜美術館、横浜市民ギャラリーと連携して行う展覧会の鑑賞体験と講座は時期や企画調整が付かず未開催。	
		□幼児向け講座 参加者数 「やってみよう」「みんなであそぼう」	120人	135人	A	横浜市民ギャラリーあざみ野単独では2回実施(参加者13人) 「子どものための鑑賞会&ワークショップ」 『あざみ野コンテンツポラリーvol.7 展覧会を体験しよう!』	
		□児童向け講座 実施回数 「つくってみよう」「〇〇に挑戦」	6講座	7講座	A	「あざみ野フォト・アニュアル『ハイ&ロースピード★ラボ』」	
		□児童向け講座 参加者数 「つくってみよう」「〇〇に挑戦」	120人	161人	A	「学校アウトリーチ」 ・三保小学校(造形:紙) ・高田東小学校(影絵) ・中川小学校特別支援学級(造形:粘土) ・新田小学校(ダンス) ・すみれが丘小学校(演劇) ・写真ワークショップ@山内小学校	
		□幼児・児童向けワークショップ 平均満足度	4.6以上	4.86	A	「先生のためのワークショップ」 ・横浜市立中学校美術研究会夏期研修 『アニメーションの活動』	
		子ども写真部					
		□実施回数	1事業、5回	3事業9回	A		
		□参加者数	200人	306人	A		
		展覧会の鑑賞体験と講座(3館連携)					
		□実施回数	2回以上	(未実施)	C		
		□参加者数	45人	-	C		
学校支援:教師対象 先生のためのワークショップ							
□実施回数	1回	1回	B				
□参加者数	10人	15人	A				
□学校支援:児童対象(アウトリーチ) カメラ・写真関連 実施校数	1校	1校	B				
□教育プラットフォーム 実施校数	3校以上	5校	A				
□学校アウトリーチ・教育プラットフォーム 参加者数	100人	761人 *子ども写真部含まず	A				

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価			
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価		
6	アーティスト・クリエイターの支援と創造性を活かしたまちづくり	企画展でのアーティストとの交流 アーティストトーク、ワークショップ			「あざみ野コンテンポラリーvol.7」 ・アーティストトーク#1「関川航平、鈴木光」、レセプション ・アーティストトーク#2「風間サチコ、岡田裕子、金川晋吾」 ・展覧会を体験しよう!「子どものための鑑賞会」 ・ワークショップ:「木版画で実現?ドリームハウス」 ・対談「金川晋吾×石川竜一」 「あざみ野フォト・アニュアル」 ・アーティストトーク、レセプション ・対談「ダゲレオタイプに現れる時間」 ・対談「新井卓×石川真生」	【成果】 ・ワークショップや展示により、年間を通して多くのアーティストが当館で自身の活動を発信していることを通じ、当館に他の目的で来館された利用者へも彼らの活動や作品について知る機会を提供できた。これにより、アーティスト・クリエイターの支援と創造性を活かしたまちづくりの一助となった。 ・貴重な映像資料として、過去の企画展出品作家インタビューを「一括検索」できるページをホームページ上に新設した。 ・昨今のホームページやSNSの広がりもあり、それぞれの展示について、インターネット上でのアーティスト自身の発信や現代アートファンのコミュニティで話題となった。	【評価できる点】 ・「あざみ野こどもぎやらりい2016」及び「あざみ野コンテンポラリー」の企画展にて、ワークショップ等のアーティストと交流する場を目標回数よりも多く実施し、参加者数も目標を上回ったことを高く評価する。また、「ショーケースギャラリー」や「フェローアートギャラリー」の実施により、新進アーティストや障がいをもつアーティストの作品を紹介する場を継続的に提供したことを評価する。 ・「ロビーコンサート」は、男女共同参画センター横浜北と協働で月2回の定期的な開催が実施されており、来場者数が100人を超える回もみられ、音楽を介した2施設の来場者の関わり合いの場となったことを評価する。		
		□実施回数	4回	8回	A				
	□参加者数	300人	559人	A					
	7	ミニギャラリーを設置して、若手アーティストや障がいのある人たちのアート作品を発表する場を提供する	□新進アーティスト支援 ショーケースギャラリー 実施回数	4回	4回	B	「ショーケースギャラリー」 ・山本貴美子展、岡田健太郎展、進藤冬華展、對木裕里展	・ジュニアコーラスは、友達と一緒に発表会を作り上げていく楽しさを感じることで講座となった。発表会には、200名を超える鑑賞者があり、ジュニアコーラスへの関心の高さが伺えた。老若男女幅広い地域のファンがクリスマスを楽しむ恒例事業となり、魅力あるまちづくりにつながった。	・「アートフォーラムフェスティバル」は男女共同参画センター横浜北との協働事業であり、参加団体数及び来場者数が目標を上回った。チラシの作成や新聞折り込みの実施等の広報面での効果もあらとみられた。
			□障がいのあるアーティストを紹介 フェローアートギャラリー 実施回数	4回	4回	B	「フェローアートギャラリー」 ・Vol.22 ウルシマトモコ「カキタイキモチ展」 ・Vol.23 阿山隆之「水辺と地下の世界展」 ・Vol.24 與那嶺光雄展 ・Vol.25 山田あこ「ちいさな波展」	・今年度の新しい大学連携の取組みとして、学芸員課程の博物館実習生(2名)受け入れを試みた。専門家を有する当館の、存在価値を示す機会でもあるので、継続して受け入れを行うことで、次代を担う人材育成につなげたい。	・大学連携として、企画展でのボランティア参加や実習生の受入れ等、多様な連携を実施したことを評価する。
			□地域アウトリーチ(小展示) ミニギャラリー 実施回数	1回	1回	B	「フェローアートギャラリー巡回展 阿山隆之展」 (岩間市民プラザ)		
	8	センター横浜北との協働関係をさらに強化し、文化芸術と男女共同参画の理念を融合した事業を展開することで、魅力あるまちづくりにつなげる	横浜のアーティスト、地域の方々によるコンサート				「ロビーコンサート」(毎月第2・4日曜日開催)		
			□ロビーコンサート 実施回数	24回	24回	B	「あざみ野クリスマスジュニアコーラス2016」 ・練習:11/3、6、13、19、26、12/3、4、10、17 ・発表会:12/23(ロビーコンサートとして)	・福祉施設の活動を紹介した。障がい者が育てた野菜や作品等を市民に届けることで、団体の活動支援と街の賑わいを創出した。	
			□ジュニアコーラスワークショップ 実施コース数	1コース	1コース	B			
			□ロビーコンサート(ジュニアコーラス含む) 来場者数	2,000人	2,337人	A	「あざみ野マルシェ/アートワゴン」 ・マルシェ:5/29、7/7、10/23、11/23 ・アートワゴン:5/5、7/7、8/3、9/22、1/22		
□ジュニアコーラス(コンサート含む) 参加者数			350人	307人	C				
□アーティストや障がいのある人たちの活動紹介、作品発表・販売の場を支援 あざみ野マルシェ/アートワゴン 実施回数			8回以上	9回	A				
男女共同参画等を題材とした創作寄席							□内容充実を図るため開催を延期し、平成29年度に「女性芸人そろい踏み演芸会」として実施する。		
□実施回数	1回	(次年度へ延期)	C						
□来場者数	190人	-	C						
9	地域の人材を活用し、協働を強化する。アートサポーターの活動を拡大し、運営や広報活動への積極的な参加を促す。地域の団体やマイスターを活用した講座やワークショップを実施する	□アートサポーターとの協働 ワークショップ 実施回数	2回以上	2回	B	「市民協働で開催したワークショップ」 ・帽子をつくろう(対象年齢なし) ・みんなでつくる あったかクリスマス			
		アートフォーラムフェスティバル							
		□参加団体数	30団体以上	66団体	A				
		□来場者数	3,000人以上	3,888人	A				
		□あおば美術公募展 来場者数	4,000人	3,461人	C				
□青葉区民芸術祭 来場者数	4,000人	4,884人	A						
10	青葉区が展開する6大学連携事業、横浜市北部4区の大学と連携を図り、人材の交流やコミュニティの活性化を実現する	大学連携				【事業でのボランティア受入れ】 国学院大学 【企画展紹介映像制作と公開】 城西国際大学メディア学部			
		■実施状況	随時実施	年間6校、9企画	B	【学芸員課程「博物館実習」実習生受入れ】 沖縄県立美術大学、八洲学園大学			
		□参加者数	120人	-	C	【学芸員、修復家、アーティストを対象とした近現代美術作品の最新の保存修復情報の共有】 東京藝術大学			
		□ワークショップ、インターンシップ 実施回数	2回	3回	A	【青葉区主催「フォトジェニック青葉 花と緑のフォトコンテスト(平成29年度事業)」連携】 横浜美術大学			

I 文化事業目標	評価項目 指定管理者提案(要旨)	H28年度計画		実施状況		評価		
		達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
4 横浜らしい先進的な文化芸術の市民への発信をします。	11 企画展はコンテンポラリーアートを中核に、より多くの市民に足を運んでいただくよう「横浜らしさ」「親しみやすさ」「暮らしに身近な」コンセプトを展開	「あざみ野コンテンポラリー」				<p>「あざみ野コンテンポラリーvol.7 悪い予感のかけらもないさ展」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示:岡田裕子、風間サチコ、金川晋吾、鈴木光、関川航平 ・関連イベント 学芸員によるギャラリートーク アーティストトーク、対談 3回 ワークショップ 2回 アートピクニック(視覚に障がいのある人となない人が共に楽しむ鑑賞会) 1回 対談「金川晋吾×石川竜一」 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あざみ野コンテンポラリー展」は広く知られた楽曲の一フレーズを採用することで美術ファンのみならず、一般にも強くアピールし、結果として様々な層の観客を得る事が出来た。アンケートにおいても「タイトルが秀逸」「展示テーマの言葉にインパクトがある」等の声があり、展示作品との関連性という点においても秀逸な演出が実現出来たと考える。 2日間に渡るアーティストトークも盛況で(計130名)、公共施設として市民の現代美術への理解を深める機会となった。 ・「横浜音祭り2016」関連事業は、異色の組み合わせや実験的な試みを前面に押し出し、当館ならではの先駆的事业を実施した。当初の予想を大きく上回る事業数、集客数を達成し、(事業数:4回予定⇒19回 参加者数:400名目標⇒7,169名)横浜北部における市の文化施設として高い発信力を示し、横浜らしい文化芸術の市民への発信に貢献した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋の企画展としては、過去最高の来訪者数となったが、一方で、ワークショップと子どものための鑑賞会は集客が思うように伸びなかった。市民及び子どものためのグランド・プログラムとコンテンポラリー企画における関心層の乖離の可能性を見てとることもでき、子どもとコンテンポラリーアートを繋ぐ事の必然性を再検証することが今後の課題となった。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あざみ野コンテンポラリー」は目標来場者数3,000人以上に対して来場者数は5,856人と大きく上回り、過去のコンテンポラリー展の中でも最高の来場者数となったことを高く評価する。企画展のタイトルに工夫を凝らすことで、中高年の男性層という新しい客層を呼び込むことにもつながったと考えられる。 ・「横浜音祭り2016」との関連事業として、「ロビーコンサート」、「あざみ野コンテンポラリー展」、「あざみ野カレッジ」、「あざみ野サロン」といった様々な事業面での連携を図ったことを評価する。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あざみ野コンテンポラリー」の来場者数は目標を大きく上回ったものの、満足度が目標値を下回っており、今後はさらに来場者の満足度の向上を図る必要がある。また、関連事業の「アートなピクニック」の参加者数が目標の半分以下となっており、事業内容や周知方法のさらなる改善が必要である。
		□企画展 実施回数	1回	1回	B			
		□来場者数	3,000人以上	5,856人	A			
		□平均満足度	4.6以上	4.22	B			
		□関連事業「アートなピクニック」参加者数	50人	17人	C			
	12 都心部フェスティバル事業と連携した企画によって、イベントの周知や盛り上げの相乗効果を発揮	「横浜音祭り2016」関連事業 あざみ野サロンを含む 音祭り連携				<p>「横浜音祭り2016」関連事業 当初はあざみ野サロンの実施回数と参加者数で目標を立てていたが、結果として以下の6事業20回の連携となり、参加者数は7,169人となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロビーコンサート(5/8~11/27) 計14回 1,296人 ・あざみ野カレッジ「日本のジャズの発展を支えた幻のレコードレーベル TBM」 69人 ・あざみ野コンテンポラリーvol.7『悪い予感のかけらもないさ展』5,542人(展覧会鑑賞者数のみ) ・あざみ野サロンVol.50『ビヨンド・ザ・ボーダー音楽祭2016 in あざみ野』92人 ・あざみ野サロンVol.52『シネマ×オルガン 験の母』97人 ・Mother Terecoシンセサイザーワークショップ 6人 ・Mother Tereco- Electronic Session 67人 		
		□実施回数	4回	4回	B			
		□参加者数	400人	262人	C			

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
5 カメラ・写真コレクションの展示・保存・調査研究・教育普及をします。	13 適切に保存するとともに、調査研究を進める	データベース整備			【収蔵作品の状態確認・調査・整備】 作品の保管状態を点検・改善しながら作業を実施。不正確な目録を調査、補完して修正。 【貸出・熟覧】年間 画像貸出:1件 【その他】 ・情報誌「アートあざみ野」コラム掲載 4回 ・ホームページでのコレクション公開(8月:公開開始、随時更新中、3月31日現在450点)	【成果】 ・横浜市所蔵カメラ・写真コレクションは、長年の懸案だった「収蔵品のホームページ上での紹介」を実現した。 今後も、未整理品の計画的な調査・整理・データベース化の実施、収蔵品の保存・管理・活用を適切に行ないながら、ホームページへの掲載品目を増やしていく。 ・「あざみ野フォト・アニュアル」の新井卓展では、作品に合わせて照明、音響などを駆使したインスタレーションとして完成させ、作家のこれまでの活動を総括し今後の可能性を提示しただけでなく、当館のポテンシャルを最大限引き出す展示構成であった。会期中は新聞各社での記名記事が4件あり、新井氏の古典技法に対する不断の努力とテーマ設定、新たな表現への意欲が高く評価され、本企画展について広く周知された。来場者数は、目標の2倍を上回る数となった。ダグレオタイプを共通項として、新井卓展とコレクション展を関連させることで、カメラ・写真の歴史をふまえた表現の展開について、分かりやすくなるよう試みた。 【課題】 ・「フォト・アニュアル」は、過去最高の来訪者を迎えたが、施設周辺(地元)からの集客については、物足りない結果であった。「近隣に貴重なコレクションを有する施設がある」という、プロモーションに活用できる格好の展示内容であったにも関わらず、十分なアピールが出来なかったため、今後は分かりやすく企画展の内容を記載したチラシを作成し、新聞折込等の直接手に届く周知方法を利用することを試みたい。 ・当館には、貴重なコレクションが所蔵されているにも関わらず、通常は、その殆どが公開されていない。加えて、維持管理に関する経常経費や経年で資産価値が向上していく状況の中、このコレクションを今後如何に活用するかが、重点課題の一つである。	【評価できる点】 ・横浜市所蔵カメラ・写真コレクションの調査・整理・データベース化を目標通り遂行したことに加え、ホームページ上でのコレクション公開が開始されたことを評価する。 ・「あざみ野フォト・アニュアル」は目標来場者数3,000人以上に対して6,328人の来場者があり、目標を大きく上回った。また、満足度も目標を超えており、高く評価する。新井卓展とコレクション展の展示を関連付けることで、幅広い層に企画展が分かりやすくなるように試みた点を評価する。また、指定管理料のみに依存しない収入の確保に向けた取組として、従来は無料で配布していた企画展パンフレットの有料化を実現したことを評価する。 ・「ギャラリー イン ザ ロビー」の継続的な実施により、コレクションの鑑賞の場を提供したことを評価する。	
		□カメラ 整備割合	完了(100%)	完了(100%)				B
		□カメラ以外 整備割合	90%	90%				B
		■状態確認、保存修復	実施	実施				-
		■「近現代美術作品の保存修復に関する研究」への参加	参加	参加				-
		■収蔵環境の調査	実施	実施				-
	■収蔵品の活用 貸出、熟覧への対応	実施	実施	-				
	14 コレクションを活用して広く鑑賞に提供し、カメラ・写真ファンの要望に応える。市民にカメラ・写真文化に親しむ場を提供し、日本における写真発祥の地の一つといわれる横浜市の映像文化づくりに貢献する	「あざみ野フォト・アニュアル」				【あざみ野フォト・アニュアル】 【展示】 ・ある明るい朝に 新井卓展 ・平成28年度コレクション展「写真 時間の位相」 【関連イベント】 ・学芸員によるギャラリートーク 2回 ・アーティストトーク、対談 3回 ・ワークショップ 1回 ・アートなピクニック(視覚に障がいのある人となない人が共に楽しむ鑑賞会) 1回	【改善が必要と考えられる点】 ・「あざみ野フォト・アニュアル」は目標を上回る来場者数となったものの、周辺地域からの客層をさらに多く取り込むことができる余地があると考えられる。今後はターゲットを絞った広報の実施等により、来場者数の向上が図られることを期待する。 ・「あざみ野フォト・アニュアル」や「ギャラリー イン ザ ロビー」、カメラや写真の関連ワークショップ等の実施により、コレクションの周知は図られたものの、より一層活用できる余地は十分にあると考えられるため、コレクションの活用について、今後検討する必要がある。	
		□企画展及びコレクション展 実施回数	1回	1回	B			
		□来場者数	3,000人以上	6,328人	A			
		□平均満足度	4.6以上	4.67	B			
		□関連ワークショップ 参加者数	20人	347人	A			
		□ギャラリー イン ザ ロビー 実施回数	4回	4回	B			
カメラや写真制作に関わる理解促進 ワークショップや講座 ※再掲								
■実施状況	実施	実施	-					
■参加者数	120人	379人	A					

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 市民の文化芸術活動の支援をします。	【貸館】 利用の際のアドバイスも充実させ、利用者の制作活動や発表の場で最大限の成果が得られるように支援 利用率の目標(平成31年度) 展示室1、2とも 100% アトリエ 午前73%/午後84%/夜間43%/ コマ単位稼働率67%/日にもち単位稼働率93%以上を維持	利用率目標			チェック	・貸出手続きや貸出期間区分の変更(平成29年10月より実施) ・昨年比(コマ単位:59%、日にもち単位:87%、夜間コマ利用:38%)	【成果】 ・展示室やアトリエの貸出は、市民が自身の芸術文化活動の成果を最大限発揮できるよう、常に利用者の目線に立って要望を受け止めたサポートを心掛け、利用者平均満足度が4.63と高い貸館事業を展開した。芸術文化専門団体が管理する施設として、企画から展示、撤収まで、多様な専門的な支援を行う事ができた。 ・開館以来踏襲されていた貸出手続きや貸出期間区分を見直し、利用される方々の利便性向上に寄与すべく、次年度に向け変更に関する関係部署との調整を行い改正を実現した。 ・貸館による展覧会や講座の広報支援として、印刷物の館内配架に加え、広報誌への掲載やホームページ上の紹介ページを充実させた。 施設プロモーションの一環として、英文による施設紹介のページを増設し、海外からの閲覧にも応える体制を整えた。 【課題】 ・平成28年度は、利用料収入獲得への取り組みとして、新たに市民ニーズに応える形で展示室の利用期間枠を変更し、アトリエの夜間の「学生割引制度」導入と近隣校への営業等を行った。ただし、施設の予約受付が1年前(展示室)及び3ヶ月前(アトリエ)からという事もあり今年度の利用率向上に直接的な効果を上げる事は出来なかった。今後は、施設の予約状況を踏まえ空いた貸室について直接的な利用者勧誘なども行っていく。 ・展示室の利用率は、昨年に引き続き、高いレベルで推移している。アトリエは昨年比において利用数が減少し、当初目標を未達成だった。特に夜間利用については、学生割引等を導入し利用促進を図ったが、効果を上げる事が出来ず打開策が見出せていない状況である。今後は、近隣学校施設との連携や展示室利用者の同時利用の形態提案等の方策により利用率向上に努めたい。	【評価できる点】 ・展示室の利用率が目標の95%を上回る95.25%という高い水準になったことを評価する。今後も安定した施設運営と利用者支援の継続により、利用促進が図られることを期待する。また、利用者の利便性向上のための運用変更や利用促進を狙った割引制度等の取組を実施しており、利用者の展覧会について、広報誌への掲載やホームページでの紹介による広報支援が継続実施されたことも評価できる。 ・英語対応として、ホームページに企画展や各種講座等の事業の概要や横浜市所蔵カメラ・写真コレクション、施設概要等について紹介する英文ページを新たに作成し、掲載したことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・展示室の利用率は高いものの、アトリエの利用率が全ての単位で目標を下回った。また、利用者の利便性向上や利用料収入獲得のための運用変更を実施したが、事前予約制ということもあり、大きな効果はみられなかった。今後は運用変更の内容について、利用者や利用が見込まれる層への積極的な周知等により、利用促進を図り、運用変更の効果が得られることを期待する。
		□展示室 I・II	95%	95.25%	B			
		□アトリエ コマ単位	63%	53%	C			
		□アトリエ 日にもち単位	93%	83%	C			
		□アトリエ 夜間コマ	36%	27%	C			
	【文化芸術創造活動発表を行う団体等への支援】 展示構成アドバイス、広報の協力、よろずご相談、利用検討/利用抽選に外れた方への対応	広報支援(施設利用者)				・広報誌「アートあざみ野」に展示室やアトリエ利用の情報を掲載すると共に、施設ホームページに展示室会期中の会場写真をアップした。チラシや案内については、常時受け入れ、館内配架した。 【その他】 ホームページ上に、分かりやすい文章表記を心掛けた施設情報を記載した。 新規:施設概要の「英文表記」ページを作成し、ホームページ上に掲載した。		
		■「アートあざみ野」で展覧会情報を紹介	実施	実施	-			
		■施設HPで展覧会写真を紹介	実施	実施	-			
		■チラシやフライヤーを配架	実施	実施	-			
		利用者、市民へのアドバイス						
		■利用者打合せ	実施	実施	-			
	■現場視察対応	実施	実施	-				
	【施設提供に関する利用者サービス】 ホームページでの施設情報提供、利用期間中の物品預かり、制作活動のための空き時間のアトリエ提供	■空き情報の公開 施設HPで施設情報提供	実施	実施	-			
		■広報支援 市内外ギャラリー情報の提供(配架)	実施	実施	-			
		■利用者サービス 利用期間中の物品預かり	実施	実施	-			
割引料金の導入				学生利用への割引制度導入				
■継続:アトリエ夜間割引		実施	実施	-				
■新規:学生割引	実施	実施	-					

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
2 利用促進、利用者サービスの向上及びアイデアノウハウの提案をします。	4 アンケートや意見聴取等による利用者ニーズの把握	□利用者アンケート 展示室利用者の満足度	4.6以上	4.63	B	・認知度調査:平成28年度5月に、平成26年度と同様の条件で認知度調査を実施。 ・来館観者への「フリーWi-Fi」サービスの導入(3月)	【成果】 ・認知度調査の結果は、20.7%と前回に比べ-1.5%となった。しかしながら、同様に前回は調査をした「アートフォーラムあざみ野」の認知度が前回(27.1%)比で+4.2%である事から、複合施設総称の認知度は上がっていると考えられる。 ・施設管理に関わるアンケートなどのお客様からの声については、迅速に精査し現状の確認に努め、丁寧な維持管理を心掛け対応した。 ・利用者にとって「安全・安心」の居心地のよい施設運営のために、複合施設を構成する男女共同参画センター横浜北と手を携えながらサービス向上に取り組んだ結果、今年度も当館責務による事故ゼロを維持した。 ・管理合同ミーティングにおいて、アートフォーラム全体でクレームや意見を共有、対応策を協議し、迅速で公平な運営改善を敢行した。 【課題】 ・認知度は、施設の総称である「アートフォーラムあざみ野」の認知を上げる事と連動する形で市民ギャラリーあざみ野の認知度向上につながる手法を講じた。	【評価できる点】 ・利用者アンケートによる展示室利用者の平均満足度が目標を上回っており評価できる。 ・管理合同ミーティングを通し、複合施設全体として課題を共有し、適切な対応を実施したことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・横浜市民ギャラリーあざみ野単館としての認知度は目標に達していないが、アートフォーラムあざみ野の施設全体の認知率は上がっており、今後は横浜市民ギャラリーあざみ野単館の認知度ではなく、アートフォーラムあざみ野全館としての認知度を上げることで、施設としての認知度アップにつながることを期待する。
		□認知度調査 横浜北部4区での施設認知度	28%以上	アートフォーラムあざみ野:31.3% 市民ギャラリーあざみ野:20.7%	B			
	5 要望や苦情への対応、運営改善	■クレームや意見を情報共有し、運営改善につなげる	実施	実施	-	・管理合同ミーティング(情報交換)開催:毎週火曜日 ・施設利用率が全体として低減傾向にある事の対策として、貸館に特化した周知や印刷物の作成・配布などの営業活動に更なる注力が必須となっている。		

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価				
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価			
3 組織的な施設運営をします。	6 適切な人材配置	■人材配置 館長:1人、副館長:1人、職員:8人、臨時職員:3~5人	配置	配置	チェック 【基本勤務体制】 早番(8:45~17:30)2名 遅番(12:30~21:15)2名(ローテーション制)	【成果】 ・施設の利用状況や事業準備及び実施の業務繁閑に応じ、柔軟かつ効率的なシフトを組み、職員のワークライフバランスに合わせた勤務と効率的な運営の両立を実現した。 ・館長・副館長不在時の代行者を明確にすることはもとより、緊急連絡先の職員間共有により、責任体制を明確化した。 ・美術専門職員の手による質の高い事業の提供と深い知見からの貸館アドバイス体制が確立した。 【課題】 ・限られた人数で質の高い施設運営を効率的に担保するには、配属された職員一人ひとりが施設運営に「多能的」である必要がある。今後も引き続き実務や研修を通じ、職員の継続したスキルアップに努めると共に情報共有の徹底を推進する。	【評価できる点】 ・適切な人材の配置、適切かつ効果的な勤務体制により、安定した施設運営が行われたことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。			
		■勤務体制 繁閑に応じて柔軟なシフトを組み、良質な利用者サービスを提供する 早番:2名、遅番:2名(基本ローテーション)	実施	実施	チェック					
		■切れ目のない責任体制の維持 館長・副館長不在時の代行者を明確にし、責任体制を維持する	実施	実施	チェック					
	7 必要人材の配置、主要人材の担保、能力向上・研修など育成	■美術の専門教育を修めた職員(学芸員資格・美術の実技)の配置3名以上	配置	配置	チェック					
		■能力向上、研修などの育成	実施	実施	チェック					
	4 本市の重要施策を踏まえ取り組みます。	8 全般的な取組	■横浜市の発信する情報や研修参加等を通して、重要施策を理解し、積極的に協力	実施	実施			チェック ・個人情報の保管 施錠管理、パスワードロック ・マイナンバー対応マニュアルの新規作成、研修 ・コンプライアンス研修実施	【成果】 ・横浜市の重要施策を念頭に、毎月の職員会議での注意喚起を行い、常にホスピタリティの向上と公平・公正を心掛け、利用者サービスの向上、バリアフリーの推進等に注力した。今年度もコンプライアンスに関わる事件・事故は、発生しなかった。 【課題】 ・ゴミの排出量が施設全体で昨年比115%となっており、全体管理ミーティング等を通じ、施設全体での重点取組み課題として、今後の抑制を図る必要がある。	【評価できる点】 ・コンプライアンス研修やマイナンバー対応、障害者差別解消法の把握等、公共の施設として必要な取組みを着実に実施したことを評価する。また、バリアフリーを推進し、利用者サービス向上の一環として、職員がサービス介助士の資格を取得したことを評価する。 ・電気及びガスの使用量が共に前年を下回ったことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・ゴミの排出量が昨年度と比較し増加した。今後は複合施設全体としてゴミの削減に取り組む必要がある。
			■コンプライアンス情報の共有、意識の向上	実施	実施			チェック		
9 個人情報保護・情報公開		■個人情報の、規程およびマニュアルに基づいた適切な取扱	実施	実施	チェック					
10 人権尊重		■すべての人に開かれた施設として、公平・公正な施設運営	実施	実施	チェック ・「障害者差別解消法」の内容を把握し、来館される方々が障害の有無によって分け隔てなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に貢献する施設運営を目指した。 ・新規に職員1名が「サービス介助士」の資格を取得し、より多くの人に公平・公正な利用をいただける施設の実現を目指した。					
		11 環境への配慮	■ゴミの排出量を抑える 施設運営上、発生するもの:適切に分別 利用者:原則持ち帰りの徹底。 必要なら有料で処分	実施	実施	チェック ・利用者にはゴミの持ち帰りをお願いし、事務所で発生するゴミも細かく分別して再利用を促進し、排出量を抑えるよう努めた。 ※「アートフォーラムあざみ野(複合施設)」全体でのゴミ排出量は、3,474kg(前年3,033kg)				
■エネルギー使用量の抑制 電気・ガス使用量を前年度並みに抑制	実施		実施	チェック						
12 市内中小企業への優先発注	■物品購入、委託 アーティスト指定、市外業者のみの業務を除き、市内業者に発注	実施	実施	チェック						

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価		
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 施設及び設備の維持保全及び管理をします。	1 共用部分の維持管理業務	■電気・空調・衛生設備・昇降機点検、建築基準法12条に基づく点検の法定通りの実施	実施	実施	チェック -	AED操作研修については、施設内AEDは定例のバッテリー確認を実施。操作研修については、財団全体として実施される救急救命講習に職員が参加する形で実施。	【成果】 ・アートフォーラムあざみ野の施設・設備の維持管理業務を総括的に担う男女参画センター横浜北および管理委託会社と、週1回のミーティングを行うことで情報共有を図り、それを基にしたPDCAを徹底することで、施設の長寿命化や環境への負荷軽減に向けた管理を継続した。 ・専有設備等は、ギャラリーとしての高い水準を維持し、長寿命化を図るため、日常的に設備や備品の適切な保守管理を行い、利用者に影響を与えるようなトラブルや事故ゼロを実現した。展示パネルなどのメンテナンス、修繕についても、円滑に進めることが出来た。 【課題】 ・「経年劣化による展示室可動壁の保守・修繕」や「収蔵庫セキュリティシステム設置」など緊急性は高くなくとも、利便性や安全性に寄与する修繕を実施すべく予算措置等を考慮する必要がある。	【評価できる点】 ・複合施設として、共用部分については男女共同参画センター横浜北と協力し、連携して適切な施設管理を遂行したことを評価する。 ・展示室壁面の塗り直しを計画通り実施する等、専有部分についての適切な施設管理を遂行したことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。
		AEDについて						
		□設置台数	1台	1台	B			
		□操作研修 実施回数	1回	1回	B			
		□センター横浜北、管理委託会社との管理検討会 開催回数	年1回	年3回	-			
■横浜市が策定する、手引き、マニュアルに基づく点検・報告の実施	随時実施	随時実施	-					
2 専有部分の維持管理業務	□展示室壁面の塗り直し 実施回数	年1回	年1回	B	・今年度は、1月5日～7日にかけ展示室壁面の塗り直しを実施。			
2 小破修繕へ取り組みます。	3 早い段階で修繕必要箇所を発見、対応し、建物・設備の長寿命化を図る	■不具合を早期発見し、修繕必要箇所へ迅速に対応	実施	実施	-	・維持管理の検討会 3回	【成果】 ・毎週開催される、管理合同ミーティングで10月、12月、2月に不具合リストを作成して、修繕の優先順位や時期、対応策を検討した。 【課題】 ・今後益々、経年劣化による修繕項目が増える事が予想される。限られた予算の中で、効率的に安全安心な施設を維持管理する為に、引き続き館全体の連携を緊密にしていく。	【評価できる点】 ・管理合同ミーティングを通し、複合施設として適切な維持保全及び管理を遂行したことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・今後も複合施設として男女共同参画センター横浜北との連携を図ることで、効率的な修繕を実施し、施設の長寿命化を図ると共に、安心・安全な施設の管理運営が継続されることを望む。
		■適切で効果的な維持保全及び管理の実施	実施	実施	-			

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価		
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
3 カメラ・写真コレクションの適切な収蔵、保管をします。	5 適切な収蔵庫管理の実施 温湿度管理、空気測定、喰害虫調査など	収蔵庫内環境の維持			・収蔵庫内の空調管理、収蔵庫の空調やpH管理を行い、作品の収蔵に適した空気環境を整えた。収蔵庫が地下駐車場から展示室への搬入ルートに位置することから、周辺環境は望ましい状況になく、喰害虫の入り込みに一層気を配り、出入りを制限した。 ・日本カメラ博物館とは日常的にコレクションの管理について相談した。	【成果】 ・1年を通じ、収蔵庫内の環境規定値を完全に維持した。 ・日本カメラ博物館をはじめ、関連団体とは日常的に情報交換を行った。	【評価できる点】 ・通年において展示室及び収蔵庫の適切な管理を実施したことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・膨大な横浜市所蔵カメラ・写真コレクションの整理や管理について、今後どのように資料活用・保存を進めていくかについて、本市と共に検討する必要がある。	
		□温度管理	20℃±2℃	20℃±2℃				—
		□湿度管理	50%±2%	50%±2%				—
		■pH値を定期的に測定して、結果に応じたケミカルフィルターを設置	実施	実施				—
		□文化財喰害虫生息調査 実施回数	年8回	年8回				—
		□庫内点検、定期的な清掃 実施回数	月1回	月1回				—
■収蔵・保管、活用について、専門機関と協力・連携	実施	実施	—					
4 事故防止策・緊急時(防犯)の対応、防災に対する取り組みます。	6 事故防止策	■安全管理に関するマニュアルの必要に応じた更新、改訂	実施	実施	現状に即した形での「施設運営マニュアル」の刷新(3月)	【成果】 ・日常の施設運営から危機管理、コンプライアンス対応等を包括した「施設運営マニュアル」を改訂し、職員全員に配布した。 ・3月実施の防災訓練は、消防立会いの下、「シナリオなき訓練」(訓練参加者に事前に内容の周知を行わない突発事象に対応する訓練)を敢行し、緊張感をもった訓練を実施し職員間の防災意識向上を図った。	【評価できる点】 ・各種マニュアルの見直しの実施、クレーム対応の共有等による事故防止策が図られたことを評価する。 ・実際の発災時に近い形での防災訓練の実施し、効果的な防災訓練が行われたことを評価する。	
		7 緊急時(防犯)対応	■アートフォーラムあざみ野全職員が一致して危機対応する	実施	実施			3月には、消防署の立会いのもと、消火器の取り扱い及びスモークテントによる火災時の煙体験を「アートフォーラムあざみ野」職員が合同で研修した。
		8 防災に対する取組	□センター横浜北との合同防災訓練 実施回数	年2回	年2回			—
□帰宅困難者一時滞在施設対応訓練 実施回数	年1回		年1回	—	【課題】 ・複合施設である上に、シフト勤務で配置人数が増減する状況下で、安全安心な施設を維持するためには、男女協働参画センター横浜北との密なる連携が必須である。	【改善が必要と考えられる点】 ・複合施設として、事故発生時や緊急時の対応、発災時の対応について男女共同参画センター横浜北とさらなる共有を行い、より綿密な連携を図ることが必要となる。		

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価		
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
5 その他施設管理に関する事項	9 広報の充実 事業内容や想定対象層等を踏まえて効果的な媒体を選択し、コストパフォーマンスの高い集中広報を行う	ホームページの内容の充実、最新情報の発信				<p>【ホームページ】更新システムを簡素化し、複数メンバーでこまめに更新。</p> <p>【有料広報】 ・交通広告は、掲載時期等の都合が合わず未実施。 ・応募状況や発券数を考慮し、タウン誌など地域住民に直接アプローチする手法を導入。 ・有料広報の実施:こどもギャラリー、市民のためのプログラム(講座募集)、シネマ×オルガン等(7回)</p> <p>【無料媒体】広報よこはま、フリーペーパー、ラジオ他。 【合同広報会議】毎週1回の管理ミーティングの際や共催事業開催時に実施。特に、10月に開催した共同主催の「アートフォーラムフェスティバル2016」では、当日パンフレットを兼ねたリーフレットやフラッグを作成。</p>	<p>【成果】 ・ホームページの高頻度での更新を継続し、新鮮な情報発信により、閲覧数について非常に高い数値(4,490,367pv)を実現しており、ホームページ自体に媒体としての高い発信力が付き、講座やワークショップの有力な募集ツールに成長した。</p> <p>・自主事業の講座をタウン誌に有料掲載することで、当該情報を見たことで参加を希望する近隣住民が多く見受けられ、広報として成果があった。</p> <p>・イベント時には、当館と男女協働参画センター横浜北の持っている広報データを持ち寄り、効果的な周知に注力した。今回初の試みとして、両者合意の下、集合チラシを新聞に折込み高い波及効果(電話問い合わせの増、来観者数3,888名=過去最高)を上げた。</p> <p>【課題】 ・美術分野に関する広報アプローチ先については、充実したデータを有しているが、その他のジャンルの事業を実施する際の周知については脆弱な面があるので、今後は類似事業へのチラシの挟み込みや、公演チラシの積み置き依頼等について、さらにきめ細かく対応を図っていく。</p>	<p>【評価できる点】 ・ホームページの更新回数やメールマガジンの配信回数、情報誌の発行回数が目標を上回った。特にホームページのアクセス件数が年間50万件以上の目標に対し、トップページは100万件、ホームページ全体では400万件を上回るアクセス数となったことを高く評価する。</p> <p>・男女共同参画センター横浜北との協働事業である「アートフォーラムフェスティバル2016」の際に、広報面での協力を行い、効果的な広報がされたことを評価する。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 ・事業の対象ごとに広報の手法を検討し、実施してはいるものの、まだ改善の余地はあると考えられる。今後は広報手法をさらに綿密に検討することで、入場者数や参加者数の増加に寄与することを望む。</p>
		□施設ホームページの更新 更新回数	週1回以上	週3回程度	-			
		□施設ホームページアクセス 年間アクセス数	50万件以上	トップ:1,087,524 総PV:4,490,367	A			
		□メールマガジン 配信数	月1回(定期配信)	年間23回	B			
		様々な広報媒体の活用						
		□情報誌「アートあざみ野」の発行発行回数	年3回以上	4回	A			
		□企画展の広報 交通広告掲載回数	年3回	0回	C			
□無料媒体への掲載 掲載回数	月1回以上	掲載実績:年間110件	A					
□センター横浜北との協力 合同広報会議 開催回数	月1回	実施	-					

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価		
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 収支構造及び収支バランス	1 一部自主事業の収支ゼロ化	□収支ゼロ若しくは黒字で行う自主事業	42万円	160万円	A	<p>自主事業での「指定管理料」を投入しない事業を「市民のためのプログラム」とし、事業料収入を想定している。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「市民のためのプログラム」(年間12コース、参加者数:延853人)は、全体収支における受益者負担率が99%を達成した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「市民のためのプログラム」については、目標を達成しているが、その他の事業については参加費を安価に抑えている事もあり、指定管理料を投入しての実施となっている。今後、レクチャールームでの鑑賞型事業等により収支均衡型事業を検討する。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理料を投入しない事業を実施し、実績が目標額を大きく上回ったことを評価する。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 受益者負担率の高い事業として「市民のためのプログラム」があるが、今後は他の事業においても、事業の本質を見極め、受益者負担率を高めることが可能な事業については、積極的に取り組まれることを期待する。
2 指定管理料にのみ依存しない収入構造	2 利用料金の安定的な確保	□利用料金収入(施設、駐車場)	1,280万円以上	1,139万円	C	<p>利用料金収入:7,837千円 駐車場利用収入:3,551千円</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、積極的に助成金申請を行い、3件80万を獲得(平成27年度:0件)した。助成金・協賛金・寄付金・広告料の合計獲得額は、目標額を達成した。コンテンポラリー展では、団体3件に申請した結果、(公財)野村財団より採択された。音祭り関連事業については、2事業が採択された。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用料金収入は、目標未達成だった。駐車場利用料金収入との合計も、1,139万円となり目標額を達成できなかった。利用率の低下に加え、企画展の会期を延長したことによる自主事業利用(無料)の増や高い利用料金収入(無料展示の倍額)が得られる有料展示による利用者が減少したことも減収の一因となっている。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 助成金の申請件数が目標を上回り、申請件数の内60%の申請が採択されたことを評価する。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用料金収入が目標を下回っており、今後は利用料金収入の獲得に向けた取組みが必要になる。
	3 助成金・協賛金、現物協賛の獲得	□助成金 申請件数	2件以上	申請:5件 【採択3件】	B	<p>【助成金】企画展「あざみ野コンテンポラリー」:30万円、音祭り連携2事業:計50万円 【その他】広報誌への広告収入、フェローアートギャラリーへの寄付金、企画展への現物協賛(写真プリント、飲料提供等)を獲得。 ■企画展「あざみ野フォトアニュアル」による、有料パンフレット(500円)の導入。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用料金収入は、目標未達成だった。駐車場利用料金収入との合計も、1,139万円となり目標額を達成できなかった。利用率の低下に加え、企画展の会期を延長したことによる自主事業利用(無料)の増や高い利用料金収入(無料展示の倍額)が得られる有料展示による利用者が減少したことも減収の一因となっている。 <p>・今後は、貸館に特化した広報誌の発行や貸館プロモーション用のリーフレットの作成及び配布などの営業活動を実施すると共に、昨年度中に導入した新規貸館制度により、利用促進を図りたい。</p>	<p>・今後は貸館についての広報や営業による利用促進を図り、さらなる利用料金収入の向上を図ることを望む。</p>
3 経費削減等効率的運営の努力	4 経費削減・効率的運営の努力	■センター横浜北と協力し、施設管理に係る委託費を抑制	前年度並みに抑制	前年度並みに抑制	B	<p>平成28年度総計31,523千円 (平成27年度総計31,494千円)</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 建物総合管理、設備保守、警備、受付、清掃業務委託については、前年度並み(予算内)に抑えることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 築10年を超え、建物・設備・事務機器等の不具合が増えたため、修繕費は今後増加傾向が予想される。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設管理にかかる委託費はほぼ前年度並みに抑えられた。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の施設管理において、建物や設備等の耐用年数を把握し、計画的な修繕計画を立て、日常的に管理することで、効率的な施設修繕を実施することが求められる。

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価	
その他	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価
						【成果】 【課題】	【評価できる点】 【改善が必要と考えられる点】
評価項目		H28年度計画		実施状況		評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標			特記事項	自己評価	行政評価
						<p>平成28年度は、平成27年度事業を継承しつつ、地域の資源活用を強化し、子どもと主婦、高齢者層に加え、青年層から中年層(就学・就業年代)の取り込みを意識した展開を図りました。</p> <p>全ての企画展において、昨年度実績及び達成指標を上回る来場者数を実現しました。</p> <p>「子どものためのプログラム」における、低年齢層を対象とした「親子のフリーゾーン」では、延べ1万人を超える参加者を迎えることができました。</p> <p>「市民のためのプログラム」では、新規にカメラ・写真コレクションを活かしたプログラムを展開し、貴重な収蔵品を紹介しました。</p> <p>「あざみ野カレッジ」では、芸術文化の枠を超えたバリエーションに富んだプログラムの数々を展開し、参加者の知的好奇心を刺激する交流の場を提供しました。</p> <p>平成28年度に開催された「横浜音祭り2016」への連携事業を6事業20回開催し、横浜北部の文化施設として当フェスティバルを盛り上げることに貢献しました。</p> <p>ホームページ上での「英語ページ新設」や「カメラ・写真コレクションのデータベース公開」の実現など、インターネットでの発信力強化にも尽力しました。</p> <p>また、「フェローアートギャラリー」の他施設への巡回展については、今後更なる発展が見込まれます。</p> <p>センター横浜北との協働により利用者にとって「安全・安心」の施設運営を実現するために、緊密な情報共有体制を維持し、サービス向上に取り組みました。また、共同で「アートフォーラムフェスティバル」やレクチャールームを活用した事業を実施し、まちのにぎわいづくりを行いました。</p> <p>施設の貸し出しについては、利用者目線に立って企画から展示、撤収まで、当館の専門スタッフが展示手法や居室利用に関するサポートを行うとともに、貸館利用の集客を支援する広報体制も強化しました。</p>	<p>今年度は3つの自主企画展全てで、目標入場者数を上回る入場者を記録したことを高く評価します。これは効果的な広報や人を惹きつけるための企画展の内容の検討、関連企画の充実等を図った成果が出たためと考えます。目標を上回った達成指標については今後もさらなる向上を図り、目標を下回った達成指標についてはPDCAサイクルを実践することで、さらなる改善が図られることを期待します。</p> <p>アトリエやレクチャールーム等で実施される子ども向け・市民向けの各種講座についても、固定化した講座については安定した実施を継続する一方で、新たな取組みとして様々な講座を企画しました。参加者数が目標を下回る講座については、効果的な広報手法を用いること等によって、さらなる参加者の増加に取り組むことを望みます。</p> <p>横浜市の文化事業「横浜音祭り2016」との積極的な連携が行われたことが評価できます。今後も連携を進めることを望みます。</p> <p>複合施設として、男女共同参画センター横浜北との協働事業について取り組みました。今後も積極的な連携を図り、複合施設としての魅力ある事業の実現を期待します。</p> <p>横浜市所蔵カメラ・写真コレクションのデータ公開が開始されたことを評価します。今後も貴重な資料の公開に向け、継続したデータ公開が実施されることを望みます。</p> <p>複合施設として、男女共同参画センター横浜北と連携を図り、適切な運営が行われたことを評価します。今後も協力して連携を図ることで、引き続き適切な施設運営を行ってください。</p> <p>現在の魅力ある事業の実施や安定した施設運営を継続しつつ、平成32年度までの指定管理期間の中で、提案内容の実現が図られるよう、計画的に事業を進めることを望みます。</p>